

個人情報情報が格納されている「金庫」、データベースへのセキュリティ対策で情報漏洩対策を万全に!

アイピーロックス ジャパン株式会社

情報漏洩は起きてからの対処だけでなく、事前に防止することも重要である。このスタンスに立って、企業をはじめ各組織のデータベースの正常性、アクセスの正常性を常に監視、検証、強化していくアイピーロックスのソリューションは、情報漏洩のリスクが高まるこれからの時代に不可欠の存在といえる。

データベースを厳正に守り抜く頼もしいガードマンとして

貴重な情報資産が満載されているデータベースは、企業をはじめ各組織にとっての「金庫」ともいえる。このデータベースの正常性(データ内容、データ構造、アクセス権など)と、アクセスの正常性を監視するセキュリティ管理ソフトとして、アイピーロックスは、要求の厳しい米国市場を始め、国際的に高い評価を受け、日本国内約30社の導入実績がある。アイピーロックスは、データベースに対するあらゆるアクセスを監視し、不審な行為や状況を検出、報告、警告、記録

することにより、情報漏洩をはじめデータの改ざん、破壊などといった事態を未然に防止する。データベースを厳正に守り抜く頼もしいガードマンとしての役割を果たし、内部犯罪にも強力な抑止効果を発揮するのである。

情報漏洩を未然に防止するアクティブなセキュリティ

アイピーロックスのデータベース・リスク・マネージメントは3つのプロセスで構成される。まず「セキュリティ・ゴールの設定」に始まる。リスクの現状認識、許容範囲の設定などを行い、脆弱性を厳正に評価する。そして「リスク・マネー

ジメントの戦略設計および実装」に移る。重要なのは自動監視だ。不審行為、異常を自動的に監視し、ログを自動取得して保管する。次に、誰が(Who)いつ(When)どこで(Where)何を(What)したか、4Wの「監査」を徹底的に行う。これに基づき、現状のリスク・マネージメントを評価・検証して、脆弱性を再評価。未然防止を重視したより高度なリスク・マネージメントへと進化させていく。

データベースからの監視・監査情報などの取得は、DBに外部のIPLocksサーバーから接続して行い、現在稼動しているデータベースには何の変更も加えられないため、低リスクで容易な導入ができる。対応データベースもOracle、SQLServer、DB2等々、クロス・プラットフォームであることも大きなメリットだ。

日本でのサポートは、信頼のできる13社より提供。また、米国本社は、日本人の坂本明男プレジデント兼CEOが創業した会社。日本市場を知り尽くした坂本氏が指揮を取っていることも、日本のユーザーには安心できる要素といえよう。A1

IPLocksエグゼクティブセミナー2005開催
2005年1月21日(金) 14:00~17:00
詳細はwww.iplocks.co.jpまで

お問い合わせ先



アイピーロックス ジャパン株式会社
〒100-0011 東京都千代田区内幸町1-1-1
帝国ホテルタワー15F
TEL : 03-3507-5805(代表) FAX : 03-3507-5932
e-mail: info-japan@iplocks.co.jp
URL: http://www.iplocks.co.jp

